

国道237号日高町日高地すべり調査設計

地すべり地全景（八地区）



当調査地区の地すべりは平成7年度に実施された、道路防災総点検で早急な対応が必要であると指摘を受けた3地区（イ、ロ、ハ）であります。地すべりの規模は1箇所 150m×150m 程度の面積でいずれの地区も泥岩の強風化部と崖錐の境界部にすべり面を持つ岩盤すべりであります。

変状状況



平成13年度9月期に当調査地区において総雨量 300mm の降雨量が観測された。地下水位の上昇に伴い、路面変状が拡大し、安全確保のため一時通行止めの処置が取られた。その後の対策としては危険を未然に防止するために各計測器を設置し、経時観測体制を取ると同時に最も危険であると判断した八地区には排水ボーリング工及び地表面排除工を実施し、地下水位を低下させる対策工を実施した。

変状状況



水抜工設置状況



抑止杭設置状況



最終的な対策工としては各計測機器で得られた観測記録及び地質調査で得られた資料をもとに地すべり機構の検証を行い、所定の安全率が得られる対策工の検討を行った。検討の結果、対策工としては施工性、経済性より抑止杭工（くさび杭）が選定され、平成14年度には施行が完成した。尚、今年度はその効果判定を実施中です。